

巻頭写真 オーストラリア、クィーンズランド州の北東部に分布する熱帯雨林と植生史研究
Tropical rainforests and palaeoecological sites of North-east Queensland, Australia

オーストラリア北東部の熱帯雨林は地球上で最も古くから熱帯雨林が存在し続けた地域とされている。この地域では玄武岩台地の中に500万年前以降の多くの火口跡、熱帯雨林の中にある火口湖である Lake Euramoo (写真1)、Lake Eacham (写真3)、現在は周辺の森林が一部伐採され火口が湿地となっている Quincan Crater (写真4) など、がある。そこにたまった堆積物から熱帯雨林の環境変遷史があきらかにされつつある。熱帯雨林では現生生物の研究が盛んに行われ、さらにアボリジニ



写真1 熱帯雨林に囲まれた Lake Euramoo, 2つの火口がつながった瓢箪形の湖である。



写真2 この地域のシンボルツリー Curtain Fig Tree (*Ficus virens*).

の植物利用や遺跡などの考古学的研究も行われて、熱帯雨林の植生史研究にとって大変うらやましい環境が整っている。大小さまざまな規模の火口跡にたまった堆積物の多くは完新世以降のもので、この地域の熱帯雨林は6000年前～5000年前に広がり、欧米人の渡来以降に多くの地点で伐採されたことが記録されている。現在もっとも古くまでさかのぼれるのは Lynch's Crater で、最終間氷期以前、約23万年前以降の堆積物であると推定されている。そこでは、約50,000年前のアボリジニの到来とほぼ同じ時期に、火に強いユーカリの仲間の増加と微粒炭の多産が記録されている。また、多くの大型動物の絶滅時期も重なることから、オーストラリアへの人類の到達が自然に与えた影響であると考えられている。2007年7月～8月にケアンズで開催された国際第四紀学連合第17回大会 (XVII INQUA) に合わせてこの地域の植生史研究が *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* vol. 251 の特集号 “Environmental History of the Humid Tropics Regions of North-East Australia” として出版されている。XVII INQUA の報告は Post Excursion でこの地域を訪れた報告も含めて、本号 (pp. 117-124) に掲載されている。

(大井信夫 Nobuo Ooi)

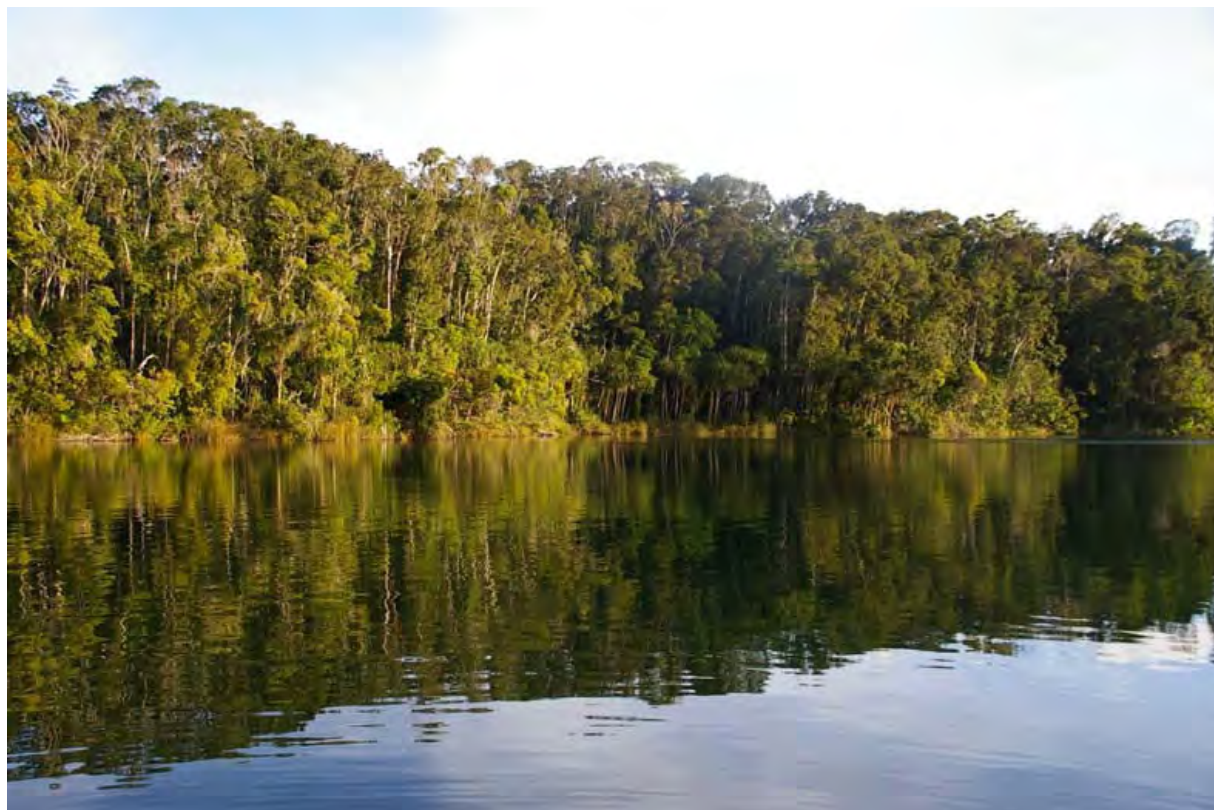


写真3 Lake Eacham. 周囲約3 km, 面積4.89 km²の火口湖. 熱帯雨林に囲まれている.



写真4 Quincan Crater. 周辺は森林が一部残っているが二次林のようである. 火口は湿原になっている.